

写真展同時企画 II
ワークショップ

未来を思考 するために。



●参加料金(全3回)

3,000円(税込)

内容に興味のある方でしたら、どなたでもご参加頂けます。ただし、参加の際にはノートパソコンを持参して頂きます。

●日程

1回目 2月8日(土)19:00- 22:00

ウェブ上から「福島第一原発事故」に関連する写真を収集します。

2回目 2月15日(土)19:00- 22:00

収集したイメージをプリント、アーカイブします。さらに、役割分担を行い、そのイメージに関するテキスト情報を集め、一つのイメージに対する複数の解釈を試みます。

3回目 2月22日(土)19:00- 22:00

引き続きイメージとその意味の解釈作業を行いながら総括を行います。

ワークショップの成果報告会

3月3日(日)14:00-

写真©東京電力ホールディングス株式会社

●ワークショップ講師 小原一真(おばら かずま)

<http://kazumaobara.com/>

1985年岩手県生まれ。写真家、ジャーナリスト。著書に『RESET』(2012/ラースミュラー出版/スイス)、スペインのRMより『silent histories』(2015)、『Exposure』(2017)がある。米TIME誌Best Photo Book選出、世界報道写真賞受賞を始め、国際的な賞を多数受賞。

写真ワークショップ「福島の写真を再解釈する」

震災と原発事故以降、写真や映像は、その非日常性とそこに生きる人々の人間としての普遍性を捉えることで、周辺にいる人々にその問題を「問題」として提起することを行ってきました。しかし、非日常が日常化し、さらに破壊された風景の多くが整理整頓されていくにつれ、その構図は失われ、イメージの背景を読み解くことの困難さは日々増して行く一方です。

本ワークショップ「福島の写真を再解釈する」では、インターネット上に溢れる「福島」の写真とそれに関連する文字情報を①収集、②アーカイブ、③再構成(編集)することで、ニュース等で目にするイメージの背景にある状況を立体的に可視化し、再解釈するためのワークショップです。

非日常的なものに以前よりも鈍感になった私たちは、整頓された風景の背後にある幾十にも重なった複雑な現実を思考するだけの忍耐を得ることが出来ないまま、ものすごい速さでイメージを消費しています。

日々、我々が目にする写真は何を伝えようとしているのか。イメージに対する複雑な思考を行えるようになった時、私たちは、原発事故をはじめとした様々な問題を読み解く忍耐と動機を得て、これから先の未来に向き合うことが出来るのではないのでしょうか。

>>写真展・ワークショップ会場

フォトギャラリー・サイ

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲2-7-19

JR環状線福島駅より「福島聖天通商店街」

方面に徒歩10分

>>お申し込み / お問い合わせ先

kazuma924@gmail.com

希望者は希望するワークショップのタイトルと①氏名②年齢③電話番号

④メールアドレスを記載の上、メールにてご連絡下さい。